



〈雑録〉米國聯邦準備法ノ價值

高島, 佐一郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 16(5):843-854

(Issue Date)

1914-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052210>



米國聯邦準備法ノ價值

商學士 高島 佐一 郎

目 次

- (一) 聯邦準備法ノ立法及ビ由來
- (二) 準備法ノ概觀
- (三) 準備法ノ經濟的價值判斷

一

一ハ國ヲ開キテ五十年、他ハ國ヲ定メテ一百年、一ノ議會討議ノ重心ハ豫算ノ議定ニ係カリ、他ノ議會論辯ノ焦點ハ立法ニ繋カリ、一ノ歳入ハ歳出ニ超エテ國庫ニ遊資ヲ絶タズ、他ノ歳入ハ歳出ヲ償ハズ、一ノ輸出ハ輸入ニ過ギ國際貸借關係久シク順潮ヲ示セドモ、他ノ輸入ハ輸出ニ超エ正貨問題長ク國ノ患タラントス。是レ豈日米兩國ノ政治、財政及ビ經濟ノ現狀ニアラザルナキカ。

斯ク觀ジ來レバ、我ノ國狀ガ供與スル發奮ノ資料寧ロ多キニ堪ヘザラントスト雖モ、翻テ米國ノ財政、經濟ノ途上ニ横ハレル病患ヲ見ル。ソコニハ產業界ニ過度ノ企業集中アリ、財政、金融ノ交錯點ニ特立金庫組織ノ存シテ財政ガ經濟ヲ壓迫スルノ患絶ヘズ、金融界ニ巨大ナル「マチー」、トラスト」アリ、又銀行券發行法ニハ絶ヘザル恐慌爆發ノ要素ヲ含ム、是レ米國上下ノ大患ニシテ在朝

者在野者、實業家が舉ゲテ其匡救策ニ腐心スル所以ナリ。特ニ金融恐慌ノ突發ニ至リテハ Harley Withers ガ道破セル如ク、歐洲諸國ニアリテハ今ヤ其絶無ナルベキコトノ保障セラル、モノアルニ於テヲヤ。

念フニ過度ノ企業集中ノ核心ハ「トラスト」ニアルニ對シテ、財政、金融不調和ノ因子ハ國庫、銀行ノ絶縁ノ法制竝ニ國立銀行法ニ在リ。時難ヲ救ハント欲スル者須ラク此碍石ヲ除クベシ。而シテ前者ニ就テハ、共和黨内閣時代既ニ挑「トラスト」的立法アリ、以テ適正ノ企業的精神、經營ノ命ズル健全ナル企業集中ヲ承認シツ、不自然ナル獨占ヲ抑ヘントスル非「トラスト」運動ハ或ル程度マデ成功シ、Prof. Fisherノ論ズル如ク「制限の方策ハ彼ノ孟浪且ツ計算ヲ缺ケル自殺的競争ヲ復活セシムルニアラズシテ、獨占及ビ合同ヲ抑制スルノ方面ニ向ケラレザルベカラザル」ノ主張ハ幾分實現セラレタルヲ見ルベシ。(Irving Fisher, Elementary Principles of Economics, p. 332) 次ニ後者ニ關シテハ、其種子ノ蒔カレタルヤ、既ニ久シキノ過去ニ屬スルノミナラズ、其桎梏ガ堅ク同國ノ政治上ノ分權主義テフ人民確信ニ食ヒ入レルモノカラ、之ヲ斷ツ誠ニ容易ナラザルモノ存シ、曩ニ極メテ理論的ニ高調セル Aldrich-Vreeland 法案アリシト雖モ、此集權的ナル立法案ハ其完成ヲ見ルニ至ラズシテ共和黨内閣ニ殉死シタリキ。然レドモアルドリツチ、ヴリーラッド兩氏ノ周匝ナル立法的熱誠ハ必ズヤ後繼内閣ニ貢獻スル所ナクンバアラズ、加フルニ銀行通貨制度改善ニ關スル建策的著書論策ハ愈々盛行シテ近キ將來ニ美果ノ結ブベキコト蓋シ疑フベカラザルモノ存シキ。

此時ニ當リ、朝ニハ、下院ニ Carter Glass ヲ委員長トセル銀行通貨制度調査委員會設ケラレ、元老院ニ Robert W. Owen ヲ委員長トセル同會設ケラレ以テ「アルドリッチ、ヴリーランド法案」ノ精ヲ抽キテ之ヲ分權化シ米國化セントスルノ努力アリ、野ニハ、Prof. Laughlin 等ノ牛耳ヲ執レル合衆國民聯合會アリ、又 George Roberts ヲ Prof. Sprague ヲ Robert Emmett Ireton ヲ論策數フルニ違アラズ。之ニ加フルニ、同國ノ新聞紙ノ共和黨、民主黨或ハ獨立黨ト入亂レ相擊チテ、其或者ハ前內閣時代ノ合衆國貨幣制度調査委員會ノ遺策ヲ奉ジ、又或者ハ現內閣ノ立法ノ經過ヲ後援シ論辯スルアリ。兎ニ角久シキニ亘リテ衆議ヲ盡スヲ吝マザリシナリ。

斯ノ如クシテ最モ賢明ナル立法ノ業ヲ全ウセザルベカラザル、且ツ之ヲ成就スルニ最モ恰好ナル地位ニ據レル大統領 Wilson ハ、遂ニ舊臘二十三日、下院及ビ元老院ヲ通過セル「オーウエン、グラス通貨法案」(Owen-Glass Currency Bill) ニ署名シテ之ヲ確然タル「聯邦準備法」(Federal Reserve Act) トナシ、先キニ十月三日新關稅法案ニ署名シタルノ名譽ヲ再ビシタリ。彼ヲ以テ產業界ヲ善導スルノ社會的立法トスレバ、此ハ金融界寧ロ經濟界ヲ鞏固ナラシムルノ社會的立法ナリ。對外政策ニ動モスレバ非議ヲ免レ能ハザラントスル民主的內閣ヲ對內政策ニ救フモノ夫レ或ハ此立法カ。开ハ何レニスルモ斯法ノ實施期目睫ノ間ニ迫ル、而シテ吾人ハ之ヲ對岸火災視シ能ハザルモノアリ、蓋シ此實施ハ雷ニ米國ノ經濟的發達ヲ助長スルニ止マラズ、其海外支店ノ開設等ハ間接ニ我ガ金融界ニモ影響スルコトナキヲ必スベカラザルモノアレバナリ。即チ其梗概ヲ敍シ、次イデ經濟的價值ヲ判斷

セント欲ス。

二

曾テ十月三日關稅法案ニ署名スルニ際シ、「獨占ヲ可能ナラシメ、寧ロ之ヲ容易且ツ自然的ナラシメタル我が産業狀態ヨリ米國ノ匡救スルモノ」ト宣シタルウイルソン大統領ハ、十二月二十三日愈新通貨法案ニ署名シタルトキ「民主黨ノ經濟政策ハ徒ラニ口舌ノ末ヲ以テ宣傳セズ、直ニ事實及ビ行動ニ明徴ニセン、此意味ヲ以テ予ハ最近ニ立法ニ依リ我が政策ノ第一章、第二章ヲ起草シ了レリト言ハントス」ト説キ、其立法上ノ抱負ノ小ナラザルヲ暗示シ、又同立法ノ直接關與者タル Carter Glass ハ、「支拂準備金ノ動化^{モビライゼーション}ヲ保障シ、彈力性ニ富メル通貨制度ヲ定メテ金融恐慌ノ來襲ヲ殆ド不可能ナラシメ、從來ウオール街ニ於ケル株式取引ガ一般通商上ニ加ヘツ、アリシ桎梏ヲ破碎シ去リ、爰ニ合衆國政府ヲシテ全國民ノ眞箇利益ノ爲ニ最良ノ制御及ビ指導ヲ信用機關上ニ加フルヲ得シメタルモノ」ト稟書シタル其法律ノ内容ハ如何。

予ハ法律ノ内容ヲ詳説スルニ本紙ヲ藉ルヲ好マズ。幸ニ本日ニ至ル三日ニ亘リ我が時事新報ニ掲載セラレタル在紐育上杉氏稿「米國新銀行法」ハ同法ノ内容ヲ示シテ委曲ヲ盡セルモノアリ、是ヲ以テ予ハ之ヲ彼ニ讓リテ、茲ニハ唯ダ同法ハ

(一)米國ノ八乃至十二箇ノ聯邦準備地方ニ區分シ、各準備地方内ニ一箇ノ聯邦準備市ヲ指定シ、其市ニ聯邦準備銀行各一行ヲ設立ス而シテ準備銀行ハ其所屬地方内ニ支店ヲ開設スルコトヲ得。

(二)此組織が完成セラレタル上ハ聯邦準備銀行(Federal Reserve Banks)ノ監督權ハ組織委員會ノ手ヲ離レテ大藏大臣、通貨監督官及ビ大統領ニ任命セラレタル五名ノ役員ニヨリ組織セラルベキ聯邦準備局(Federal Reserve Board)ニ移ル。但シ準備局ハ大藏省ノ一局トス。

(三)準備銀行ノ出資者ハ同銀行ノ會員トモイフベキ國立銀行竝ニ之ニ準ズベキ銀行、一般公衆株主、及ビ合衆國政府ノ三種トス。

(四)準備銀行ノ營業上ノ地位ハ他ノ文明國ニ於ケル中央銀行ニ類似ス、即チ準備銀行ハ

(イ)株主タル銀行及ビ政府ノ預金ヲ受ケ

(ロ)株主銀行ノ裏書セル商業手形等ヲ再割引シ

(ハ)準備銀行相互間ノ爲替取引及ビ再割引

(ニ)内外市場ニ於テ金貨地金銀ノ賣買及ビ之ヲ擔保トスル貸付

(ホ)内外市場ニ於テ手形、證券類ノ賣買

(ヘ)外國爲替取引、之ヲ營ムガ爲ニ外國市場ニ代理店ヲ設置ス

(ト)國庫金ノ取扱

(チ)準備局ノ命ヲ受ケ銀行利率ヲ定ム

(リ)正貨準備ヲ備ヘテ銀行券ヲ發行シ、又合衆國公債或ハ商業手形ヲ準備局ニ預託シテ銀行券ヲ

發行ス

等ヲ規定シ、又其義務ニ就テハ猶ホ歐洲ニ於ケル中央銀行ノ如ク、發行税ノ納付、利益金ノ處分上ノ制限等ヲ嚴重ニ規定セルコトヲ敘述スルニ止メントス。

長大ナル如上記述の内容觀ヲ誦シ、更ニ眼界ヲ轉ジテ新聞紙上ノ之ニ對スル論調ヲ顧ミンカ。如何ニ、通貨銀行制度ノ改善問題ガ政黨的色彩ヲ混フベカラズトイヘ、又政黨の利害ヲ超越セル問題ナリトハイヘ、民主黨ノ政論記者ハ別トシ、共和黨又ハ獨立黨ノ機關紙——此法案ガ議會ノ討論ニ繫屬セシ當時ニ於テハ頻リニ惡聲ヲ放チ盛ニ反對ヲ試ミタルモノト雖ドモ——亦タ左ニ例示セル如キ贊辭ヲ捧ゲテ客マザリシヲ見ン。共和黨機關紙「紐育ウオールド」ハ「ウイルソンノ與ヘタル實業界ノ平和憲法ハ通常ノ紙上憲法ニアラズシテ、法治國ニ於テ政治上、實業上ノ最大ノ自由ヲ保障スルノ大憲章タリ」ト贊シ、又金融關係ノ諸問題ニ對シ常ニ正論ヲ怠ラズト傳ヘラル、獨立黨機關紙「フィラデルフィア、バブリッシャー」ハ同法ヲ呼ブニ「奈翁ガ佛蘭西銀行ヲ創設シ、比公ガ獨逸帝國銀行ヲ建立セルノ偉蹟ニモ比類スベキ米國通貨銀行制度ニ根本的ニシテ明確ナル新紀元ヲ劃シタルモノ」ノ褒詞ヲ以テ酬ヒ、更ニ「聯邦準備銀行ハ單ニ一手ノ指タリ、合體シテ中央銀行ノ職分ヲ盡スベク、今ヤ吾人ハ同法ノ實施ニ依リ世界ノ一等國ト比肩シ得ルニ至リタリ。而シテ一九〇七年ノ夫レノ如キ金融恐慌ハ吊鐘聲ニモ相似テ永ク米國ノ經濟界ヲ去ラン」ト論ゼリ。(The Literature Digest,

January 3, 1914.)

斯法果シテ斯カル無條件ナル賞讃ニ値スルカ。筆ヲ新ニシテ些カ考察セン。

三

聯邦準備ノ新法ガ米國金融市場ノ確實性竝ニ財政、經濟ノ調節力ニ及ボス影響ニ就テハ、國立銀行制度及ビ特立金庫組織ノ二大桎梏ニ緊縛セラル、所ノ米國金融界ノ現狀ヲ考察スルニヨリ、其大體ヲ彷彿シ得ベシ。然レドモ其觀念ヲ明確ナラシメント欲セバ先ヅ須ラク聯邦準備法ノ特質ヲ闡明セザル可ラズ。

元老院銀行通貨制度調査委員長 Robert W. Owenノ談片トシテ、一月三日ノ 'The Literature Digest' 誌ノ傳フル所ニ依レバ、同氏ハ該法ノ根本的特質ヲ相シテ左ノ五點ニ求メタルガ如シ。

(イ) 仕拂準備金^{バンクレザerve}ノ集中

(ロ) 支拂準備金ノ動化

(ハ) 割引市場ノ建設

(ニ) 屈伸の通貨制度ノ確立

(ホ) 米國貿易業ノ金融の方面ヲ後援スベキ海外支店ノ開設

誠ニ然リ、以上ハ準備法ガ設定セント欲セル綱領ナルベシ。然レドモ論片單簡ニシテ其本質ヲ明徴スルニ足ラズ、依リテ吾人ハ進ンデ其法律ヨリ其價值判斷ノ資料ヲ抽出シ來リテ更ニ演繹スル所ナカルベカラズ。

之ヲ爲ス、先ヅ聯邦準備銀行ノ地位、本質ヨリ始メザルベカラズ。即チ準備銀行ハ中央銀行又ハ

準中央銀行タルカノ問題ヨリ出立セザル可ラザルナリ。

吾人ハ之ニ對シテ、聯邦準備局ナル一連鎖ニ依リ八準備銀行ハ合體シテ事實上合衆國中央銀行タルノ職分ヲ行フト言ハント欲ス。然レドモ是レ平常ニ於テ然リトイフノ謂ニアラズシテ、金融界ノ狀勢ノ之ヲ必要トスルトキ、自在ニ此形體ヲ成シ其職分ヲ行フトイフノミ。米國ノ政治語ヲ假用スレバ、金融界ノ波靜カナルトキ即チ相分レ分權シテ相侵サズ、經濟界ニ浪立騷グトキ即チ連衡シ集權シテ之ヲ凌驅シ去ル、此正權兩道ハ斯法ノ與フル所ナリ。

按ズルニ聯邦準備法ノ明文ハ、準備銀行ニ準備金ヲ預託スベキ範圍ヲ以テ國立銀行等ニ限ルト雖ドモ、這ハ直接關係ヲ宣ベタルノミ。若シ準備市ノ所在市ニシテ適當ナルヲ得、又英國ノ準備金集中ノ事例ガ教フル所ニシテ謬ラズンバ、米國ニ於ケル二萬五千有餘行ノ準備金ハ必ズヤ直接又ハ間接ニ八準備銀行ニ集中セラレザルヲ得ズ。而シテ此準備金ハ之ヲ保有スル銀行ニ於テ動化セラル、モブライムノミナラズ、又準備銀行間ニ流動セラルベシ。何トナレバ此八箇ノ大貯水池ニ集中セル準備金ハ、準備局トイフノ此八池ヲ連絡スル所ノ水道ヲ經テ自在ニ他池ニ移動シ得レバナリ。而シテ此水道流水ノ原動力ヲ爲スモノハ、準備局ガ一準備銀行ニ命ズルニ他準備銀行所有ノ手形ヲ再割引スベキコトヲ以テシ得ルノ權限ニアリ。唯ダ其權力ノ濫用ヲ慎ムガ爲ニ其命令權ノ行使ニ一制限ヲ加ヘタルノミ。是ヲ以テ有事ノ際、準備銀行ハ合體シテ中央銀行タリト言フ、又タ何ノ妨ガカコレアラン。而シテ他方ヲ顧ミレバ、英米ノ如キ經濟殊ニ金融ノ發達高度ニシテ銀行ノ經營資金ノ大部分ガ外來資

金ヨリ成レル邦國ニ於ケル中央銀行ガ日常無事ノ際ノ地位ハ左程重要ナラザルアリ、(Bagelot, Lombard Street, Preface by Withers, p. 12.) 卽チ吾人ガ準備銀行ヲ呼ビテ中央銀行ノ職分ヲ盡スモノトナスニ躊躇セザル所以ナリ。

サテ準備銀行ノ地位斯ノ如シトシテ、斯法ノ實施ガ及ボス金融上ノ影響ハ奈何。而シテ是レ同時ニ此制度ニ對スル價值判斷タルベシ。

一八六〇年斯制採用以來功罪相半バシ、幾度カ國立銀行法ノ改正ヲ中心トシテ其改善ヲ試マレタル彼ノ特立金庫組織ガ、此聯邦法準備法ノ實施ト共ニ廢棄セラレ、爰ニ分權的ナル預金組織ニ進展シ得ベキハ其一ナリ。特立金庫組織ハ、縱令、時代後レノ國庫制度ナリトハイヘ、又夙ニ一八五六年藏相 Guthrie ガ其運用上ノ危機ヲ疾呼セル如キモノアリシトハイヘ、(Conant, The Principles of Banking Money and Banking, Vol. II, p. 369.) 深ク同國民族確信タル分權主義ト共鳴セルモノアリシヲ以テ、其預金組織ヘノ進展運動ハ極メテ緩漫ナリシヲ免レズ、(Conant, op cit., p. 372.) 而シテ其運用ノ五十有四年間、國庫竝ニ銀行ノ此分離狀態ハ、絶エザル財政ノ金融壓迫タラザルコトヲ得ズ又國庫金ノ死藏ガ貨幣ノ效用ヲ奪フコトヲ避ケ得ズシテ、商工業ノ發達ヲ妨ゲタルコト少々ニアラザリキ。然ルニ今ヤ準備銀行ヲ公金取扱者トスルノ預金組織採用セラレントス、英蘭銀行ノ地位ト卽チ準備銀行ノ當ル所、今後復タ財政ガ金融ノ調節ヲ破ルコトナカラン。

其二ハ支拂準備金ノ集中及ビ動化是レナリ。各行ノ預金ニ對スル支拂準備金法定額ハ、其所屬地

方ニ於ケル聯邦準備銀行ニ集中セラレ、法規ノ制限内ニ於テ動化セラルベキガ故ニ、今後復々聯合準備制度ノ權法ヲ要セザルベシ。此點ニ關シテ斯法ノ實施ハ紐育市ノ金融上ノ地位ニ幾分ノ變遷ヲ加フベキカハ興味アル問題タルヲ失ハザルベシ。思フニ、現今ノ準備市制度ガ定ムル中央準備市ハ三箇ヲ數フルトハイヘ、全國ノ準備金ノ流レハ概テ紐育ニ向ヒア、アリ。然ルニ新法ノ下ニアリテハ準備金ノ流レヲ限ルニ準備地方ノ範圍ヲ以テスルガ故ニ支拂金ノ紐育市ヘノ大集中ハ幾分緩和セラレ、彼ノ所謂「マチー」、トラスト」ノ患亦輕減セラルベキカ。然レドモ紐育ヲ中心トスル東部地方ノ高度ナル經濟的優越竝ニ紐育自ラノ金融的發達ヲ觀ズレバ以上ノ機械的豫斷ハ或ハ正鵠ヲ失セルモノナルヤモ知ルベカラズ。开ハ兎ニ角トシテ、動化力アル準備金ノ集中ハ、Bagehotガ「一銀行ノ手中ニ保有セラル、百萬磅ハ一大勢力ナリト雖ドモ、全國民間ニ分散セラレ數千人ノ間ニ保藏セラル、同額ノ現金ハ何等ノ勢力ヲ爲スモノニアラズ」ト論ゼル如ク、割引資金、再割引資金トシテ必ズヤ見ルベキ成績ヲ齎ラサン。

一九〇七年ノ夫レノ如キ金融恐慌ヲ葬ルノ吊鐘ト呼バシメタル、證券預託法ニ依ル國立銀行券ニ代フルニ、一種ノ屈伸制限法ニ依リ金貨、公債及ビ商業手形ヲ引當トシテ發行セラルベキ聯邦準備銀行券ヲ以テスルコトハ其三ナリ。而シテ是レ應テ來ルベキヨリ完全ナル通貨統一ノ前驅ト看ルベシ。割引手形等引當ノ銀行券ハ言フマデモナク金融的需要ニ應ジテ伸縮スルモノナルガ故ニ、彼ノ彈力性ヲ缺ケル證券預託ニ依ル所ノ銀行券ニ比シ、優良ナル通貨タルコトハ一ノ公理の命題ニ屬スベシ。又國立銀行券アリシガ爲ニ不廉ノ市價ヲ維持シ得タル二分利附公債ニ至リテハ、此銀行券發行權ノ消滅ト前後シテ償還セラルベキガ故ニ國立銀行ノ利益ヲ害フコトナシ。

其四ハ「ウォール街」即チ株式取引所ニ供與セラレタル巨億ノ「コール、ローン」ハ、其進路ヲ轉ジテ商業資金タルベク割引資金タルベキコトナリ。株式仲買ノ利用スル「コール、ローン」ハ商業家ノ拾ヒ取ルコト能ハザルノ溢レ水タルコト、或ハAntwerpガ力說スル如カラント雖ドモ、(William C. Van Antwerp, The Stock Exchange from Within, pp. 104, ff.)其溢レ水爾カク巨大ナランカ遂ニ商業手形割引資金ヲ枯渴セシメザルヲ得ザルベシ、況ンヤ株式仲買ノ負擔スル「コール」利率ノ銀行家ヲ誘惑セズンバ止マザルモノアルニ於テヲヤ。而シテ是レニ紐育所在ノ大國立銀行ニ集中シ來レル準備金及ビ國立銀行ニ於ケル割引業禁止ノ致ス所ニアラザルナキヲ念ヘバ、斯法ノ實施ハ必ズヤ「ウォール街」ノ貸出ヲ減少シ無謀ナル投機取引ヲ抑制スルノ效果アラシ。

再割引ノ盛行セラル、ニ至ルベキハ其五ナリ。是ニ準備法ガ歡ブ所ノ商業手形動化ノ當然ノ結果ニシテ深ク繹ヌルヲ要セズ。念フニ手形割引ハ銀行戰ノ第一線タルベク、株式取引所ヨリ轉換シ來ルベキ支拂準備金ノ主力ハ必ズヤ之ニ向ヒ注ガレン、唯ダWhiteガ舉示セル如ク米國ニハ手形未ダ多カラザルヲ憾ムノミ。乍併米國ニ於テ從來割引市場ノ見ルベキモノナカリシハ其責一ハ國立銀行法ニアリ。然ルニ今ヤ準備銀行ノ正規業務ニ割引再割引認メラル近キ將來ニ於テ割引市場大ニ起ルベキハ決シテ空望ニアラザルヲ覺ユ。

其六ハ準備銀行ノ支店設置ヲ認メタルニアリ。支店制度ト單一銀行制度トノ優劣論ハコト古リタリ、而シテ此支店制度ガ國立銀行ニモ認メラル、ノ日、米國ニ於ケル隱レタル銀行集中運動ハ忽ニ現ハレタル大銀行運動タラン、乍併此日近キ將來ニ來ルコトナカラシ。

準備銀行ノ營業科目ニ外國爲替ヲ加ヘ、同銀行ニ認ムルニ海外代理店ノ開設スルヲ以テセルハ其

七ナリ。是レ實ニ國際的ニ永ク貪眠セル米國銀行業ヲ起シテ國際競争ノ圈内ニ入ラシメントスルノ一宣傳タリ。念ズルニ歐洲諸國及ビ米國ノ銀行業間ニ存在スル所ノ根本的相異ハ、貸附、割引ノ裏面ニ横レル債務擔保物件ノ差違ニアリ、即チ倫敦、巴里、伯林等ノ大銀行ニ於ケル資産ノ大部分ハ爲替手形ヨリ成立スルニ對シ、米國第一流ノ銀行ノ資産ハ公債、株券等ヨリ成ル。而シテ此相異ハ、倫敦等ニ手形引受業務盛行セラレテ割引業ガ銀行業務ノ焦點ヲ爲スニ對シテ、紐育金融ノ重心ガ「コール、ローン」ニ定メラレタル現状ニ説明ヲ與フルモノトス。(L. M. Jacobs, Bank Acceptances, published by National Monetary Commission: Laughlin, Banking Reform, chap. VI參照)然ラドモ今ヤ米國銀行業ハ長夜ノ眠ヨリ醒メタリ。醒メタル銀行ハ、歐洲流ノ銀行業務ヲ營ミ、外國爲替業ヲ行ヒ、又手形引受業務ヲ行ハザルベカラズ。而シテ之ガ開拓者ノ意味ニ於テ海外代理店ノ設置ハ絶對ニ必要トスル所ニシテ此規定ノ出デタル所茲ニ在ラン。吾人ハ之ヲ見テ米國ノ銀行業亦タ國際的ニ多事ナラントスト言フニ止メン。

論ジ來リテ、其細目ニ亘リテハ未ダ満足スベカラザルモノ尠ナカラズトハイヘ、吾人ノ同法ニ對スル印象ハ大體ニ於テ好立法トイフニ盡ク。其部分的不完全ノ如キハ何時ニテモ改刪シ加除シ得ル所ナレバナリ。凡ソ根本的立法ノ業ハ一筆ニ描クベカラザルコト言フ俟タズ、唯ダ船ハ眞直ニ向ケラレタリ此舵決シテ曲グベカラザルノ用意アラバ即チ足ラン。而シテ此點ニ就テハ、副大統領 Nathan 言ク肯綮ニ觸レタルヲ覺ユ、曰ク「此程度ノ治療ヲ加ヘテ米國ナル患者ノ經過ヲ見シ、蓋シ慎重ナル醫師ハ病人ノ組織ガ一時ニ消化シ得タル以上ノ藥劑ヲ投ズルコトナシ、彼ハ既ニ投ジタル藥餌ニ組織自ラガ調和シ來ルヲ待ツテ更ニ一劑ヲ與フルニアラズヤ」ト。(大正二年二月三十一日)